

1 題材 くねくねの木から何ができる！？ ～『糸のこすいすい』（日本文教出版5年）～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、4年生「ギコギコトントンクリエイター」の学習において、のこぎりを用いて木を様々な形に切る活動を経験してきている。そこでは、組み合わせた形から見立てを行ったり、イメージを基に形や色を工夫したりして、思い思いの作品をつくる姿が見られた。このような子どもが、電動糸のこぎりを用いて木を曲線に切断し、それらを組み合わせたり着彩したりする活動に取り組めば、形や色などの造形的な特徴を捉えながら、自分にとっての意味や価値をつくりだし、つくりだす喜びを味わうことができるだろう。

<題材について>

本題材は、糸のこぎりを用いて木を切断し、それらを組み合わせて立体に表す題材である。糸のこぎりは、のこぎりとは異なり、木を曲線に切ることが可能である。そのため、不規則な形や無作為な形を生み出すことができる。子どもは、様々な形の木を構成していく中で、イメージを広げ、自分なりの形を追究していくだろう。ここでは、子どもが、形の組合せによるイメージの変容を捉え、更新してよりよくしていく姿を大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- のこぎりと糸のこぎりを用いて曲線を切り、違いについて探る場を設定することで、用具の使い方や特徴を捉え、活動の見通しをもつことができるようにする。
- 活動中に、自分の活動や作品を見つめたり、友達と交流したりする対話の場を適宜設定することで、イメージを広げながら活動することができるようにする。
- 題材の終わりに、作品紹介シートを作成し、主題についてクイズ形式で異学年の子どもや来校者に見せる場を設定する。そうすることで、表現の喜びを味わい、これからの表現の意欲の向上につなぐことができるようにする。

3 目標

- (1) 木の板を切ったり板を組み合わせたときの感覚や行為を通して、形の造形的な特徴を理解する。また、木の板や糸のこぎりを適切に扱うとともに、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 (知識及び技能)
- (2) 板の形を組み合わせたときの造形的な特徴を基に自分のイメージをもち、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。また、自分たちの作品の造形的なよさや面白さについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 主体的に木を切ったり組み合わせた立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組む、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えられる。

本学園の図工・美術部では、感性や想像力を働かせ、対象を造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだしていく子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、自己や他者、作品や材料などと対話する中で自分の思いや願いをもち、自分なりの表現を追求していく姿だと捉えている。本題材においては、思いや願いをもつことのできるような教材・活動の提示に加え、活動途中における思いや願いの達成度について振り返り、学びを調整していくことのできる場を設定する。こうして、子どもが、思いや願いを実現するために、対象とじっくりと関わったり、他者と見方や感じ方を交流したりしながら、イメージを形に表していく様相を、エージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、変化の激しい社会においても、自身のもつ感性や想像力を働かせながら、新たな価値をつくりだし、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 10時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等				
			知識・技能		思・判・表		態度
			知	技	発	鑑	
一 ③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料や用具と出会い、木の板を電動糸のこぎりを使って様々な形に切る ・のこぎりと糸のこぎりの違い ・電動糸のこぎりの使い方 ・多様な曲線の形 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用具による違いに着目させることで、表し方の工夫に関心をもつことができるようにする 	○	○			
二 ⑥ 本時 3 / 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考作品を鑑賞し、木の板の組合せによる印象について話し合う ・主題と木の板の組合せ方との関連付け ○ 木の板の組合せ方を試す ・組合せ方による印象の違い ● 互いの活動を鑑賞し、工夫の視点を共有した後、自分の活動を振り返り、表したいことを決める ・自分の表したいことの決定 ○ 自分のイメージを形に表す ・イメージを表すための構成 ・イメージを表すための着色の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品や他者、自己と対話する場を設定することで、様々な方法を試したり、考え方を取り入れたりすることができるようにする ○ 工夫の視点を共有する場を設定することで、思いの表し方を広げ、自分の表したいことに合った工夫をしながら作品に表すことができるようにする 	○ ◎ 観察対話作品 WS		○ ◎ 観察対話作品 WS		↓
三 ①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品紹介シートを作成し、互いの作品を鑑賞する ・互いの作品のよさや面白さ ・つくりだす喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な人に作品の意図を伝えることで、表現することの喜びを味わうことができるようにする 			◎ 観察対話作品 WS	◎ 観察対話作品 WS	

6 本時案 ー第2次・3時分ー

- (1) 主眼 互いの活動を鑑賞し、木の板の組合せ方による印象の違いについて話し合った後に、自分の活動を振り返りながら活動していくことを通して、表したいことや表すための工夫について考えを深めることができる。
- (2) 準備 子どもの作品、グルーガン、ホットボンド、ワークシート など
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 互いの活動を鑑賞し、工夫点を共有する</p> <p>友達の活動を見て、どのようなことを考えて活動していると思うか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいものについての見通し ・友達の作品から受ける印象 <p>自分や友達の活動の工夫したところはどこか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合せ方による印象の違い 	<p>ア 縦・横・斜めといろいろな方向に組み合わさっていて、面白いな</p> <p>イ 高くつないでいるね。タワーや天に昇る感じをイメージしているのかな</p> <p>ウ 複雑に組み合わせていて、何か判断するのは難しいな。気持ちとか表しているようにも見えるよ</p> <p>ア 高さが出るように、バランスを取りながら、上につなげていったよ</p> <p>イ 縦横だけでなく、斜めに組み合わせると、面白い形になったよ</p> <p>ウ たくさん組み合わせるところと空白にするところを強調させると、バランスの取れていない不思議な形になったよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に友達の作品を鑑賞する時間を設定することで、活動の多様性に目を向けることができるようにする ・グループごとに互いの作品について、「見えたもの」「受けた感じ」などの視点を基にして伝え合う時間を設定する。そうすることで、作品や見る人によって感じ方が異なることに気付くことができるようにする ・木の板の組合せ方の工夫について、全体で共有することで、新たな工夫の視点に気付くことができるようにする ・活動の中で、いいなと思った形が生まれた際には、タブレットで撮影し、保存させておく。そうすることで、活動の過程を振り返ることができるようにする 	15
<p>2 自分の活動を振り返り、友達から得た工夫も取り入れながら、組合せ方を試す</p> <p>これからどのように活動していくか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の方向性の検討 	<p>ア 同じつないでいくにしても、空間や方向を意識して組み合わせようかな</p> <p>イ せっかく二つとない曲線や尖った形があるのだから、この形を生かしたものをつくりあげたいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時前と本時後の自分の思いや思いの変化、変化した要因などについて振り返り、シートに記入させる。そうすることで、自己や他者と対話することのよさに気付くことができるようにする 	35
<p>3 本時の学習を振り返る</p> <p>考えが広がったことはどのようなことか。また、考えが広がったのはなぜか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想の広がり ・対話することのよさ 	<p>ア 友達と交流して、自分の活動と向き合うことで、いろいろな工夫の仕方が見付かったな</p> <p>イ 同じの木の板でも、組合せを変えることで、違うものを表すことができたよ</p> <p>ウ 表したいものがだんだんと決まってきたよ。もっと思いに近付けるために、どうしたらよいか</p>		45

(4) 評価規準と方法

自分の活動を振り返り、表したいことや表すための工夫について考えを深めることができたか、活動の様子やワークシートの記述からみとる。

<メモ>

1 題材 新たなパッケージのデザインをみつけよう

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、これまで色彩や構図についての基礎的な学習に意欲的に取り組んできた。第1学年では、「色の三要素」、「三原色」、「配色」について学習し、色彩や構成についての基礎知識を学んできた。また、ポスターカラー絵の具を使用し、色面構成などで色彩表現を学んでいる。パッケージのデザインを色彩や構成に着目し、タブレットなどのICTを活用することで、さらにデザインに関する見方・考え方が広がるであろう。

そこで、次のような題材を設定する。

<教材について>

本題材は、ICTを活用しながらパッケージをデザインすることで、試行錯誤しながら広い視野で何を総合的にとらえ、発想や構想を練ることをねらいとしている。タブレット端末を使用することで、色や形の変更を簡単に行うことができる。生徒が頭の中でイメージしたことをタブレット端末の画面で即座に変換が可能なのが大きなメリットの一つといえる。色については、タブレット端末の既存のパレットから色を選択してもよいが、1学年の時に「色光の三原色」について学習している。そのため、子どもは、パッケージのデザインを考え、さらにタブレットで画像の合成や加工方法について学習し、新たな見方や感じ方を広げるであろう。また、客観的事実や史実は尊重しつつも、子どもの作品を鑑賞する上で気付いた思いや言葉を大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 日常生活でよく見かけるマークやロゴを鑑賞させ、それらが様々な人に情報を伝え、生活を円滑にするため、役割を担っていることに気付かせる。
- 題材を通して、ICT（タブレット端末）を利用する場面を設定する。そうすることでICTの特性を生かし、デジタル上での班活動や画像処理技術を学び自らの作品に迫ることができるようにする。

3 目標

- (1) 形や色彩が感情にもたらす効果や、具体物や行為を表す形の特徴などを基に、伝達するイメージなどを理解することができる。 (知識及び技能)
- (2) 伝えたい内容やイメージなどを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現する構想を練ることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝えたいイメージとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、造形的な見方や感じ方を深める活動に取り組もうとすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

4 well-being につながる学びについて

本学園では、well-being を「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することができれば、社会が抱える複雑で困難な課題を解決していくことができ、well-being の実現につながると考えている。

本学園の図画工作・美術科では、対象を造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだしていく子どもを育成する授業を、教科の本質に迫る授業と捉えている。本題材については、パッケージのデザインを制作する中で、ICT を活用と色彩についての様々な可能性を考え、新たな発想を得て、自分なりの表現を追究していく姿などを、教科の本質に迫った子どもの姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、今後、既知や未知のものに対して創造性を発揮しながら、新たな意味や価値を生み出していこうとすることができ、well-being の実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 5 時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを 発揮するための手立て	評価規準・評価方法等		
			知識・技能	思考・判断・表現	態度
一 ②	○ 自分のイメージを膨らませ、パッケージのデザインを構想する ・ワークシートを使用し、指定された条件を満たしているか振り返る	○ 日常のパッケージデザインを参考に自分自身が良いと思ったデザインを自ら改良しデザインしようとする意欲が湧くようにする	知 ↓	思 ↓	態鑑 ↓
二 ① 本 時 1 / 2	● パッケージのデザインを班で議論する ・コンセプトが合致しているかなどの観点別評価を行う ○ 振り返りを基に、デザイン案を加筆・訂正する ・よりよいデザインになるように試行錯誤しながら作品を完成させる	○ パッケージを班で共有することにより自分のデザインを客観的な視点でとらえ共同エージェンシーを祖立つようにする	知 ↓	思 ↓	態鑑 ↓
三 ①	相互鑑賞 ・形や色彩、デザインを相互鑑賞する	・形や色彩、デザインを相互鑑賞することで自他のデザインを客観的な視点で評価できるようにする	知 ↓	思 ↓	態鑑 ↓

6 本時案 本時案 ー第二次・1時分ー

- (1) 主眼 新たなパッケージのデザインを通して、よりよいデザインを発見することができる
- (2) 準備 教科書，美術資料，筆記用具，タブレット端末
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 パッケージについて考える</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> パッケージのデザインは何を表しているのだろう？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ パッケージの色を変えて印象を変えてみる 	<p>ア 相手に商品のイメージを伝える</p> <p>イ 企業や商品のイメージ</p> <p>ウ 味や香りのイメージ</p> <p>エ メーカーのイメージ</p> <p>オ おいしそうと思わせる</p> <p>ア 印象が変わる</p> <p>イ パッケージの意味が変化する</p> <p>ウ おもしろくなる</p> <p>オ 見やすくなる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常で使われているパッケージを参考に考えさせる ・ パッケージは，形だけでなく色との組み合わせによりイメージが変わったり，伝える効果が向上したりすることを理解できるようにする。 	5
<p>2 自分のパッケージがコンセプトと合致しているか班で検討し，その後個人で加筆・修正を行う</p> <p>①形や色の検討</p> <p>②相手の受け止めるイメージについて検討</p> <p>③修正・改善を行う</p>	<p>ア 形や色のアイデアがよい</p> <p>イ 形が分かりやすいデザインになっている</p> <p>ウ 色を〇〇にかえたらよいかも</p> <p>エ 形をはっきり描くとよい</p> <p>ア 相手に伝わりやすいデザインになっている</p> <p>イ パッケージのデザインが商品と合致している</p> <p>ア 形を改善してうまくいった</p> <p>イ 色を変更してみた</p> <p>ウ 〇〇の形がうまく描けない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つのアイデア案に固執することなく，アイデアによってさまざまにイメージを膨らませることができるようにする。 ・ 自分が考えたイメージを具現化できるようにする ・ マークの形や色のバランスを考え，試行錯誤しながらマークのデザインをイメージすることができるようにする 	10
<p>3 まとめ</p> <p>相手に伝わりやすいデザインになっているか確認し，次授業につなげていく</p>	<p>ア 伝えたい内容やイメージを効果的に伝えることができる</p> <p>イ わかりやすく相手に伝えることができる</p> <p>ウ 言葉で表現しなくてもパッケージの色や形を見れば相手に伝わる</p> <p>エ 海外の言語などわからなくてもパッケージのデザインで理解することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他ともに創した作品を鑑賞し比較し，理解を深めることができるようにする ・ パッケージについて多様な視点から捉えることができるようにする 	45
			50

(4) 評価規準と方法

自分の目指す色や形をワークシートからアイデアスケッチ，パッケージのデザインを評価する。様々な視点から，見方や感じ方を広げられることができたか，ワークシートから見とる。

<メモ>